

知的障害のある児童生徒のキャリア発達を支援し、一貫性・系統性のある教育課程や授業の充実を図るために

【研究を行った背景及び目的】

- ①特別支援学校高等部学習指導要領（H21.3告示）に「キャリア教育」の文言が明記され、特別支援教育においても学校全体及び保護者や関係諸機関との連携・協働に基づく組織的な取組による、早期からのキャリア教育の推進が求められている。
- ②前研究において提案した知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」について、幅広い実態の児童生徒を視野に入れた適用が求められている。
- ③学校現場におけるキャリア教育の推進及び充実のために、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」を活用するためのツールと実践モデルが求められている。

【研究の内容及び結果】

本研究では、ライフキャリアの視点から「キャリア発達段階・内容表」を見直し、**キャリアプランニング・マトリックス（試案）**として改訂しました。試案で示したキャリア教育の各観点については、**観点解説**として、職業生活、家庭生活、地域生活における指導・支援のポイントを解説するとともに、小・中・高等部における実践例を掲載し、再整理しました。また、キャリア教育の視点による、一貫性・系統性のある教育課程及び授業の改善・充実のためのツールとして、**「単元における観点位置付けシート」**、**「授業における観点位置付け・授業改善シート」**、**「単元においてねらうキャリアの観点シート」**を、個別的教育支援計画の充実のためのツールとして**「本人の願いを支えるシート」**を開発し、研究協力機関において試行し、これらのツールに基づく実践モデルを提案しました。そしてこれらを**「知的障害教育におけるキャリア教育の充実のためのガイドブック」**として、まとめました。

表1に本研究で整理した知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス」（改訂版「キャリア発達段階・内容表」）（試案）を、表2（裏面）に観点解説の一部を示します。

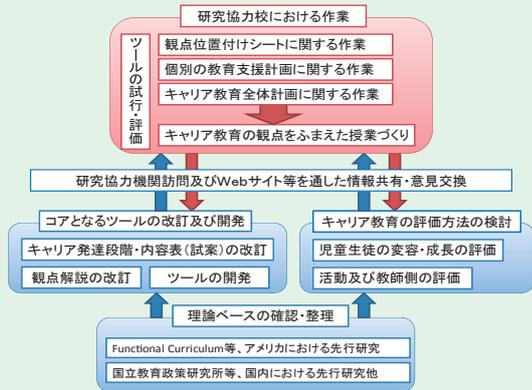
表1 知的障害のある児童生徒の「キャリアプランニング・マトリックス（試案）」
（改訂版 知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」）

キャリア発達段階	小学部（小学校）	中学部（中学校）	高等部
職業及び生活にかかわる基礎的能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的能力獲得の時期	職業及び生活にかかわる基礎的能力を土台に、それらを統合して働くことに応用する能力獲得の時期	職業及び生活後の家庭生活に必要な能力を職業に働くことを想定して具体的に適用するための能力獲得の時期
キャリア発達段階の解説と発達課題	未分化であるが、職業及び家庭・地域生活に関する基礎的能力の習得と意欲を育て、後の柔軟性に必要統合する能力獲得の始まる時期である。キャリア発達の見地からは、学校及び生活に関連する諸活動のすべてにおいて、遊びから目的が明確な活動へ、取組む素材が身近なものから地域にある素材へ、援助を受けながらの活動から自主的・自立的活動へと発展しながら全人的発達を促す時期であり、働くことに対する夢や意欲を育てる。	小学部段階で積み上げてきた基礎的能力を、職業（働くこと）や生活の場において、変化に対応する力として転化できるようにして行く時期である。キャリア発達の見地からは、職業生活に必要な自己及び他者理解（自らのよさや仲間のよさ）を深め、実践的な職業体験を通じて自らの適性に気づき、やりがいや充実感の体感を通して、職業の意義、価値を知ることを学び、自己の判断による進路選択を経験する時期である。	中学部段階で培ってきた能力を土台に、実際に企業等で働くことを前提にした継続的な職業体験を通して、職業知識・技能を得るとともに、職業選択、及び移行準備の時期である。キャリア発達の見地からは、自らの適性ややりがいなどに基づいた意思決定、働くことへの知識・技能の獲得と必要意欲の形成、必要な支援を適切に求め、指示・助言を理解し実行する力、職業生活に必要な習慣形成、経済生活に必要な知識と余剰の活用等を含む時期である。
職業の（進路）発達にかかわる能力領域	小学部段階において育てたい力	中学部段階において育てたい力	高等部段階において育てたい力
人間関係形成能力	<p>人とのかかわり</p> <p>●自分の良さへの気づき ●教員の良さへの気づき</p> <p>●集団参加</p> <p>●大人や友達とのやりとりと集団活動への参加</p> <p>●意思表明</p> <p>●日常生活に必要な意思の表明</p> <p>●挨拶、身だしなみの習慣化</p>	<p>自己理解・他者理解</p> <p>●達成感に基づく確定的自己理解、相手の気持ちや考え、立場の理解</p> <p>●集団における役割の理解と協力</p> <p>●社会生活に必要な意思の表明</p> <p>●状況に応じた言葉遣いや振る舞い</p>	<p>●職業との関係における自己理解、他者の考えや個性の尊重</p> <p>●集団（チーム）のよさとしての役割実行</p> <p>●必要な支援を適切に求めたり、相談したりできる表現力</p>
情報活用能力	<p>様々な情報への関心</p> <p>●地域社会資源の活用とマナー</p> <p>●体験を通じた金融の大切さの理解</p> <p>●自分が見たはずの役割の理解と実行</p>	<p>様々な情報への関心</p> <p>●進路をはじめ様々な情報の収集と活用</p> <p>●社会の仕組み、ルールの理解</p> <p>●消費生活に関する基本的な事務の理解と計画的な消費</p> <p>●様々な職業があることと働くことに関する体験的理解</p> <p>●学校生活、家庭生活において自分が果たすべき役割の理解と実行</p>	<p>職業生活・社会生活に必要な事務の情報収集と活用</p> <p>●洗や制法の活用</p> <p>●社会の様々な制度やサービスに関する理解と職業生活での利用</p> <p>●労働と報酬の関係の理解と計画的な消費</p>
将来設計能力	<p>夢や希望</p> <p>●職業的な役割モデルへの関心</p> <p>●夢や希望</p> <p>●職業的役割モデルへの関心</p> <p>●夢や希望</p>	<p>夢や希望</p> <p>●将来の夢や職業への憧れ</p> <p>●職業的役割モデルへの関心</p> <p>●夢や希望</p>	<p>●働く生活を中心とした新しい生活への期待</p> <p>●職業の意義や将来に必要とされる役割の活用</p>
意思決定能力	<p>自己選択</p> <p>●目標への興味、意欲</p> <p>●遊び、活動の選択</p> <p>●活動の振り返り</p>	<p>自己選択</p> <p>●目標の設定と達成への取組</p> <p>●自己の個性や興味・関心に基づいたよりよい選択</p> <p>●進路選択に関する主体的な選択</p> <p>●活動面での振り返りやそれを次に生かそうとする努力</p> <p>●自己調整</p>	<p>●将来設計や進路希望の実現を目指した目標の設定とその解決への取組</p> <p>●進路現場等における実習などの経験に基づく進路選択</p> <p>●進路現場等における実習などにおいて行った活動の自己評価</p>
知的障害の各教科の段階との関連	<p>教師の援助を受けながら実践し、基本的な行動を一つ一つ身に付けていく段階（小学部1・2段階）</p> <p>主体的に、社会生活につながる行動を身に付けていく段階（小学部3段階）</p>	<p>生活経験の積み重ねを考慮して、社会生活や将来の職業生活の基礎的内容を学ぶ段階（中学部1段階）</p>	<p>卒業後の家庭生活・社会生活・職業生活などを考慮した基礎的内容から発展的内容を学ぶ段階（高等部1・2段階）</p>

※本試案における「能」とは、competencyのことを指す

表2 観点解説の一例 「将来設計能力」 やりがい、生きがい・やりがい 系列

【将来設計能力】		やりがい、生きがい・やりがい 系列													
<p>○この系列について</p> <p>この系列は、社会自立に向け、働くことを含めて意欲的に取り組む姿勢が自己を生かし、よりよい生き方ができることに結びついていくという気づきを育てることが重要であることを示している。また「生きがい・やりがい」は様々な価値観をもつ包括的内容であり、個性を尊重しながら、それぞれにとって「生きがい・やりがい」と思える事に出会うことが大切である。例えば、スポーツの好きな生徒であれば、大会を目指して日頃からスポーツに取り組む、独自の検定制度を考案し、茶道の授業を導入する、漢字検定やパソコン検定、ホームヘルパーの資格取得などに取り組むことなどが考えられる。段階を遡って教をとっていくことが励みにもなり、継続する意欲へとつながっていくと考えられる。また、コンサートに行くことや、地域の人々、専門家とともに音楽や美術などの芸術的な活動を通して自分を表現することが自己実現につながり、充実感、達成感へもつながる。在学中に本人が出会った事を卒業後の支援へつなげていくことが大切である。</p>															
<p>○系列の構成図</p> <table border="1"> <tr> <td>小学部</td> <td>中学部</td> <td>高等部</td> </tr> <tr> <td>やりがい</td> <td>生きがい・やりがい</td> <td></td> </tr> </table>				小学部	中学部	高等部	やりがい	生きがい・やりがい							
小学部	中学部	高等部													
やりがい	生きがい・やりがい														
【将来(小)】		やりがい													
<p>① 育てたい力</p> <p>小学部 ○意欲的な活動への取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思う存分活動に取り組む、物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。 															
<p>② 解説</p> <p>小学部段階では、思う存分活動に取り組む、「やり遂げる」経験を大切に。教師は、児童のやり遂げたいという気持ちを大切に、児童が自分なりの充実感や満足感が得られるように援助することや、やり遂げたことをともに喜ぶことが必要である。</p> <p>また「これはできる」、「これは得意」さらには「これはやってみたい」と思えるような学習活動を設定し、達成感を得られるよう配慮しながら、多様な経験ができるようにすることも大切である。</p>															
<p>③ 考えられる指導内容(例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単元・題材名</th> <th>ねらい</th> <th>留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>広場で遊ぶ(遊び:小・低)</td> <td>体をいっぱい使って好きな遊びをする</td> <td>一人一人が思う存分遊んだと感じられるように、スペースや遊びのコーナー、教材・教具の数、時間などを十分確保する。</td> </tr> <tr> <td>郵便屋さん(生単:小・高)</td> <td>投函された手紙を責任をもって友だちに届ける</td> <td>校内にポストを設置し、友だちへの手紙を投函してもらい、取扱いに注意して宛先の友だちに届けることをとおして、「ありがとう」と感謝される経験がたくさん得られるようにする。</td> </tr> </tbody> </table>				単元・題材名	ねらい	留意点	広場で遊ぶ(遊び:小・低)	体をいっぱい使って好きな遊びをする	一人一人が思う存分遊んだと感じられるように、スペースや遊びのコーナー、教材・教具の数、時間などを十分確保する。	郵便屋さん(生単:小・高)	投函された手紙を責任をもって友だちに届ける	校内にポストを設置し、友だちへの手紙を投函してもらい、取扱いに注意して宛先の友だちに届けることをとおして、「ありがとう」と感謝される経験がたくさん得られるようにする。			
単元・題材名	ねらい	留意点													
広場で遊ぶ(遊び:小・低)	体をいっぱい使って好きな遊びをする	一人一人が思う存分遊んだと感じられるように、スペースや遊びのコーナー、教材・教具の数、時間などを十分確保する。													
郵便屋さん(生単:小・高)	投函された手紙を責任をもって友だちに届ける	校内にポストを設置し、友だちへの手紙を投函してもらい、取扱いに注意して宛先の友だちに届けることをとおして、「ありがとう」と感謝される経験がたくさん得られるようにする。													
【将来(中高)】		生きがい・やりがい													
<p>① 育てたい力</p> <p>中学部 ○様々な学習活動への自発的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好きな活動への意欲を様々な学習活動へつなげる。 <p>高等部 ○職業の意義の実感と将来設計に基づいた余暇の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働くことにやりがいを感じることで将来設計に基づいた余暇活動の活用を考える。 															
<p>② 解説</p> <p>中学部段階では、自分の好きな活動をもつことで自発性を高めることに重点が置かれる。その自発的な態度が周囲に認められることにより、意欲へとつながり、学習活動全体に波及していく。補助具の活用など、できるだけ少ない支援で自分の力でやり遂げる経験を重視する。そのことで、本人の充実感や、達成感が大きくなり、将来のやりがいへとつなげることができると考える。</p> <p>高等部段階では、働くことをはじめ意欲的に取り組むことが、自己を生かし、よりよい生き方ができることに結びついていくということを、現場実習等の体験を通してできるだけ実感できるようにしたい。併せて卒業後の社会生活を見据えて、自分の趣味の充実を図ることや、職場でのサークル活動への参加の仕方、余暇活動に伴う公共施設の利用方法を学ぶ機会を設け、卒業後の充実した生活につなげていく。在学中に学んだことや体験したことが卒業後も取り組める場を見つけれられるよう、支援していくことも大切である。</p> <p>余暇の活用については、生活を「楽しむ」という側面に加え、余暇の活用を通して「ストレスを解消する」という面でも効果的である。生徒自身でどのようにストレスを解消したら良いか考え、それを実行する経験を積めるようにすることが大切である。また地域で、相談できる窓口の人と実際に話す機会を設定することも大切である。</p> <p>このように余暇の充実を図ることは、卒業後の生活の「生きがい」を考える上で大事なことであり、無理に余暇活動をさせたり、気の乗らない余暇を過ごしたりするのではなく、本人が選択し、そのことが本人にとって意味のあることが重要である。人によっては、仕事が充実すること、「働くこと」自体に「生きがい」を見い出す場合もあるため、広い意味で本人にとっての「生きがい」を捉え、支援していく必要がある。</p>															
<p>③ 考えられる指導内容(例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>単元・題材名</th> <th>ねらい</th> <th>留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>販売会を成功させよう(作業、生単:中)</td> <td>販売会に向けて大量の製品を製作する</td> <td>販売会に向けて多くの人に買ってもらえるように、たくさん製品を作るようにする。毎回の製作数、出来上がりを確認しながら製作意欲を高めるようにする。</td> </tr> <tr> <td>お弁当作りと販売(生単:高)</td> <td>注文を受けたお弁当を作る</td> <td>ただ販売するだけでなく、食べてくれた人に感想や意見をインタビューし、次のメニュー開発に生かすようにする。また食べている様子の写真を送ってもらい調理する意欲を高めるようにする。</td> </tr> <tr> <td>趣味をひろげる(生単、総合:中・高)</td> <td>太鼓の奏者から太鼓の打ち方を学ぶ</td> <td>定期的に太鼓の奏者を引き、演奏の仕方や準備の場を設定する。また、年度末に演奏会を企画し、授業の成果を保護者や地域の人に聞いてもらう。</td> </tr> </tbody> </table>				単元・題材名	ねらい	留意点	販売会を成功させよう(作業、生単:中)	販売会に向けて大量の製品を製作する	販売会に向けて多くの人に買ってもらえるように、たくさん製品を作るようにする。毎回の製作数、出来上がりを確認しながら製作意欲を高めるようにする。	お弁当作りと販売(生単:高)	注文を受けたお弁当を作る	ただ販売するだけでなく、食べてくれた人に感想や意見をインタビューし、次のメニュー開発に生かすようにする。また食べている様子の写真を送ってもらい調理する意欲を高めるようにする。	趣味をひろげる(生単、総合:中・高)	太鼓の奏者から太鼓の打ち方を学ぶ	定期的に太鼓の奏者を引き、演奏の仕方や準備の場を設定する。また、年度末に演奏会を企画し、授業の成果を保護者や地域の人に聞いてもらう。
単元・題材名	ねらい	留意点													
販売会を成功させよう(作業、生単:中)	販売会に向けて大量の製品を製作する	販売会に向けて多くの人に買ってもらえるように、たくさん製品を作るようにする。毎回の製作数、出来上がりを確認しながら製作意欲を高めるようにする。													
お弁当作りと販売(生単:高)	注文を受けたお弁当を作る	ただ販売するだけでなく、食べてくれた人に感想や意見をインタビューし、次のメニュー開発に生かすようにする。また食べている様子の写真を送ってもらい調理する意欲を高めるようにする。													
趣味をひろげる(生単、総合:中・高)	太鼓の奏者から太鼓の打ち方を学ぶ	定期的に太鼓の奏者を引き、演奏の仕方や準備の場を設定する。また、年度末に演奏会を企画し、授業の成果を保護者や地域の人に聞いてもらう。													



【本研究の研究構造】

本研究の研究成果報告書は、以下のような構成で作成しています。

研究の目的・内容・実施状況

- 第1章 知的障害教育におけるキャリア教育
- 第2章 「キャリア発達段階・内容表(試案)」及び観点解説の改訂
- 第3章 実践モデルの提案
- 第4章 キャリア教育の評価
- 第5章 研究協力機関における実践報告
 - 宮城県立気仙沼支援学校の実践/東京都立青鳥特別支援学校の実践/静岡県立静岡北特別支援学校の実践/和歌山県立たちばな支援学校の実践/広島県立黒瀬特別支援学校の実践/京都市立下京中学校の実践

第6章 研究のまとめと今後の課題

第7章 キャリア教育の今後の展望

資料 キャリア教育FAQ

本研究において作成した諸ツール様式
コラム1~8

【関連情報】

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。なお、本研究に基づくガイドブックをジース教育新社より刊行予定です(平成22年8月)。

【研究課題名(研究期間)】

専門研究B 「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究—『キャリア発達段階・内容表(試案)』に基づく実践モデルの構築を目指して—」(平成20年度~平成21年度)

本研究に関する情報は、以下のWebページで一部公開しています。

http://www.nise.go.jp/blog/2009/05/post_224.html

【研究代表者/問い合わせ先】

菊地 一文 (教育支援部主任研究員)
e-mail kikuchi@nise.go.jp